

国分寺市図書館運営協議会 第5期第6回定例会要点記録

日時：平成 28 年 1 月 20 日（水） 午前 9 時 30 分から 11 時 30 分

場所：本多公民館 集会展示室

欠席 3 人 傍聴：1 人

会長：では始める。最初は報告事項で、図書館評価について事務局より報告を。

事務局：配布したのは平成 27 年度の図書館評価の目標である。27 年度の目標だが提示がこの時期になった。参考に平成 25 年度の図書館評価について 26 年度にこの運営協議会委員で評価した文章と評価を入れてある。そこで C であったものと、27 年度に特記すべき目標について説明する。以下説明。

会長：報告という形だが何かあるか。

課長：次回が 27 年度の最後なので、事業実績を次回までに図書館で入れ込んでくる。

会長：前回同様、小委員会を作って行うのか。

課長：それも含め次回の運営協議会で諮りたい。

会長：本来は、図書館の実績を入れたものを図書館内部の評価として示し、運営協議会で二次評価をする。平成 27 年度の目標がどのくらい達成できているか、図書館で評価をする。

委員：市民一人当たりの図書費はいくらか。

課長：26 年度の数字で、国分寺市は 262 円。下から 3 番目である。1 番は、武蔵野市の 665 円。

委員：いつも言っているが、評価を A だとか B だ C だということより、重点的にやれることは 3 つくらいしかできないので、全体の中でこれとこれをやると決めて、C 評価のものは遅れても仕方ないという目標付けをした方が良い。議論していても時間がかかる。例えば今の市民一人当たりの図書費が 262 円というのを、他市がもっと多いので増やさなければということを議論しても仕方ない。また、本を増やすのが大前提なのか。市民に活字に親しみを持たせる活動をする等、特徴を持たせないと、全部について他市に勝つことはできない。財政が厳しいのはわかっている。根本的な議論をしなければいけない。「利用者の皆さんの意見を」がいっぱいあるが、それだけでよいのか。いろいろな市が、図書館の充実によって本が売れなくて本屋が困っているというような議論がある。図書館はどうあるべきなのか。例えば、書店や出版社の人に入ってもらって、図書館の活動はどうあるべきなのか、吸い上げる必要があるのではないか。書店などの意見を吸い上げる場所がないし、国もなかなか言い出せない。行政の図書館、何が目的で何が重要なのか議論する必要がある。本の供給者の意見が必要な時代が来ている。

委員：目標の中に、開館時間の拡大・延長があるが、アンケートの結果を見ると、「このままでよい」という意見がたいへん多い。例えば、開館時間を 9 時 30 分からではなく

9時にすとか、カウンターを1つだけ開ける部分開館をすとか、夜8時以降も1人だけ配置して開館すとか、365日、1人か2人いていつ行っても開館しているということもできなくはない。現状の図書館を見ていると午前中は人が来ない。午前中を薄くして人が来る時間帯を厚くするなど、きめ細やかにやっていく必要がある。1月6日の朝日新聞で、図書館の貸出を制限することについての意見が載っていた。出版側や作家の立場などからの意見もあった。図書館で借りることによって作家の売り上げが落ちている。外国では作家に保証している国が多い。日本図書館協会の見解ではやらないとなっているが、運営協議会の考え方の一つとして出してもいいのではないか。

会長：今の話は大事なことである。一つ目の図書館の評価については、この中から、28年度はどこに重点を置くか、そこが大事。その中で、何を重点的にやろうとしているのか協議が必要。それなりの見解を出していく必要がある。メリハリをつけて、我慢する部分、やる部分を決めたらそれに全精力を傾ける。

国分寺らしさ、何を捨てて何を生かすか、国分寺としてどうするか、利用者にもアピールする。予算・人を確保していくアピールをする。すると図書館が動いているという感じがする。今年はこのやる、ここに焦点を絞ってやるんだということを出して、正職員ではなく臨時職員でもいいので人を増やしたり、補正でもいいので予算をとってアクションを起こしてほしい。それによって市民も盛り上がる。メリハリが欲しい。

もう少し、視点を俯瞰的に見ると違う視点になってくる。図書館は出版業界や書店を圧迫するのではなく、助長するところである。多くの図書館はそれをやっている。新聞の記事はあながち的を射ているとは限らない。視点を広くしてみると書店の言い分を聞いていくのは確かだが、そこまで圧迫しているとは言えない。日本の図書館の数は先進国に比べてはるかに遅れている。3,200館ぐらいだが3倍の10,000くらいにならないと。今出版されている本の中で、初版本は3,000部とか、専門書は初版のみのものとかもある。図書館が購入することにより支えている面がある。図書館が出版社と書店と共存共栄していくことにより、それなりの書き手が育っていく。図書館の主催で講演会をやるなど、補い合う部分はある。書店から見た図書館という観点で言うと、総合展のシンポジウムで、ジュンク堂の福嶋聡氏の発言で、「書店は図書館にはかなわない。書店には新刊本しか置いていない。初版本や品切、絶版本も図書館には一通りおいてある。それはどんな大きな書店でもかなわない。」と言っている。図書館は図書館の視点で成り立っている。対立する構図を作らない方がいい。そのことを十分意識する必要がある。

委員：世の中には色々な意見がある。行政側の観点で、「市民サービス」と言われると市民は受け入れてしまう。しかし、本当の市民サービスとはなんなのか。図書館では何でも手に入る。子どもも含め、活字の大切さを訴えるなどが重要。新刊本を入れる

だけではないと言いたい。

国分寺市は東京都の中で何かナンバーワンになるものを目指す必要がある。全面展開ではなく、一点突破でいい。国分寺市の図書館が、市民一人当たりの図書費が262円というのを300円や600円にはできないのだから何か一つナンバーワンと自信を持って言える目標・柱を作ってほしい。

委員：国分寺市は5館あるという利点が生かされてきている。地域の個性を引き出す。利用のされ方は地域によって違う。本多は朝から夜までフル回転している。地域的に児童が多い図書館とか、地域の個性を生かしたらどうか。今すぐにはできないことなので取り組んでほしい。

アンケートを見ても現実的に動いている状況がわかる。本多の新緑まつりは、地域に密着した企画だった。

会長：次は光図書館一部業務委託について

課長：第4回の検証委員会で配布したものを本日の資料として付けてある。1回目から3回目で委託業者の評価、4回目で、次期29年度からの4館の委託に向けての新仕様書の検討、運営の改善について検討した。明後日に第5回の検証委員会で最終報告を出し、議会に報告予定。平成28年度にプロポーザルによる業者選定を行う。以下説明。

会長：検証委員会については何かあるか。

委員：委託にするのはサービス拡大ができるからということだと思うが、夜間利用者はどのくらいいるのか。それにかかる費用はどのくらいなのか。費用対効果はシビアに計算したほうがいい。お金がないのにサービス拡大というのはどういうことか。夜間開館したらお金がこれだけかかっているというのを示してほしい。

課長：アウトソーシングの目的は、費用対効果、サービス拡大。夜間開館については、正規職員と嘱託職員の投入はしていないのでコストダウンになっている。8時30分から19時30分までを委託業者が時差出勤している。費用対効果は上がっているはずである。計算では平成26年度と27年度の人件費の差額は600万円強、その2年なので2倍、2千万円弱である。

委員：夜間開館ありきで委託になったが、夜間開館が必要なのか考えたほうがいい。

委員：委託の検証委員会というのはどこの自治体でもやっていることではない。そこに運営協議会の会長と副会長が出席しているというのは評価できることだと思う。ちゃんとした検証を続けていけたらと思う。

会長：国分寺らしさというものを出してほしい。どこの自治体でも委託をしたらどこでも同じ形で業者が入ってやっていて、業者に丸投げをしているところもある。委託を導入する前に、運営協議会で議論していろいろな意見を出した。どういう業務を委託するのか。図書館の本来あるべき姿とは何か。行政が図書館を運営する責任、それらをふまえながらやっている。行政が進めてきて、欠かしてはいけないものを明

確にし、継続していく。委託業者と直営の区分けをはっきりする。そこで国分寺らしい委託方法が見えてくる。図書館の踏ん張りどころである。委託もまんざら悪くはない。行政側は職員をうまく育てていって、司書が次世代に引き継げるように図書館委託を考えていく必要がある。

委員：光図書館が委託して、カウンターには委託業者しか出ていない。職員はカウンターに出ていない。ある時間帯職員がカウンターに出るというようにしたらいいのではないかと思う。そうすれば図書館を市が運営しているということがわかるのではないか。

会長：それは運営上、契約上難しい。

課長：職員と委託業者が混在しないのが前提である。職員も、レファレンスと読書相談を行っており、その場合には窓口に出る。今は、やりながら軌道修正をしている段階である。

会長：次は図書館ボランティアについて

課長：図書館ボランティアについて説明。ともに図書館を支えるメンバーとして位置づけている。現在12名の応募があり、すでに並木図書館では本棚の整理と清掃、本多では2月から来る人がいる。通いやすいところを希望してきている。3月には1回一堂に集まり意見交換会を予定している。

委員：ボランティアというのはどうかと思う。実際は作業的なことをやっている。図書館の個性を出していく一員であるという部分をPRしていかないと、せっかく来た人たちがただ作業をやるだけになって、単に人件費を節約するにすぎなかったということになりかねない。もっと計画性を持ってボランティアの活動を始めていかないと、図書館の個性が生かし切れていない。

委員：第3条の活動内容に具体的にに入れてほしい。

会長：募集のパンフレットに、夢のあるような呼びかけを載せるなど、募集の仕方で大きく変わる。要項はこれでよいが、パンフレットなどでもっと市民の個性を活かせるように工夫するとよい。

委員：図書館の活動に参加しませんかとか、図書館活動をさらに拡大するために参加してみませんかとか。展示など、やってもらっていることの紹介をするといいいのでは。

副会長：自分の子どもの学校で、学校図書館ボランティアというのをやっていた経験があるが、先生たちがしっかり話を聞いてくれたことが良かった。何ができるか、できないかなどボランティアの声を聴くことを大事にしてほしい。

課長：3月に話し合いを持つ。

会長：連絡会議も必要だが、日常的に集まる場も必要である。会議をやって意見を求めるのではなく、談笑のテーブルがあり井戸端会議のようなものがあると話しやすい。そこに職員も入り意見を聞いたりすることが大事である。作業ではなく、協力支援を考えるといい。

会長：次に北口再開発ビルについて

課長：北口再開発ビルについて説明。

会長：図書館の分館の位置づけはどうなるのか。

課長：今のものをそのまま移すか、別のものになるか図書館の位置づけは現在調整中である。方向性が出たらまた報告する。教育委員会の中では、図書館法の図書館を堅持したい。運営協議会の意見を反映させながら、進めていきたい。

会長：オープンのは時期は。

課長：平成 30 年 4 月を予定している。

委員：障害者団体として、この中で仕事をさせてほしい。集うという部分で、本の持ち込みができる喫茶に、障害者の働ける環境を作ってほしい。緑化コーナーの仕事も国分寺の活動グループがあるのでそういうところに入れてほしい。

課長：都立多摩図書館移転の説明。

課長：ICタグシステムについて。資料はないので口頭で説明する。ICタグは、昨年度光図書館の資料に貼付し、もともち図書館だけが貼っていない状態である。来年度はICタグと貼付の予算化ができていない。来年度、システムの導入に絡めて予算化をする予定。

西国分寺駅周辺及び国立駅高架下におけるサービスポイントについて説明。

西国分寺については、いずみホールの指定管理の切り替え時期に合わせて行うことでいずみホールと調整中。予約資料の受け渡しを行う。国立駅高架下は、政策経営課中心に検討している。

事務局：図書館視察については、2月10日（水）1時30分から4時30分、あきる野市中央図書館の見学。直接行く委員は、1階ロビーに集合。集合していく委員は国分寺駅に集合。電車の時間を確認して集合時間を案内する。同規模の自治体の新しい図書館である。資料の抜粋を本日の資料として付けている。

会長：本日はこれで終わる。副会長からひと言。

副会長：国分寺市の成人式に会長と出席した。実行委員が中学の教師にインタビューした映像を流し大変いい成人式だった。中学生の演奏もよかった。皆で一緒に作る大切さを感じた。

事務局：次回運営協議会は、3月23日（水）午前9時30分から。なお、今回、前回の記録をつけていないので次回資料として付ける。